

事業所における自己評価総括表

事業所名	LITALICOジュニア香椎教室 児童発達支援
事業者向け自己評価表作成日	2026年2月27日（金）
自己評価総括の担当者	大東紀良里

	実施期間	有効回答数(回答者数)	有効回答数(対象者数)
保護者評価	2025年12月19日(金) - 2026年1月29日(木)	72	72
従業員評価	2025年12月19日(金) - 2026年1月29日(木)	10	13

各評価を受けて事業所内で分析した強みと弱み

事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること
<p>スタッフの専門性と助言の質 資格保持者による、根拠に基づいた的確なアドバイスが信頼されている。</p> <p>圧倒的なホスピタリティ 「人が全て」と言わしめるほど、スタッフの人間性や雰囲気が高評価されている。 ハード面（設備）以上に、ソフト面（人）が「居心地のいい環境」を作っているという強い肯定。</p> <p>支援への深い理解と受容 「完璧を追求しなくていい」「思い通りにいかないのが人間らしい」といった、支援のプロセスそのものを肯定的に捉えてくれる保護者がいる。</p> <p>ICT活用の成果 遠隔モニタリングがあるからこそ「もっと情報が欲しい」という前向きな欲求に繋がっている。</p>	<p>支援時間の延長 どの教室でも共通の課題ですがより長い時間の支援を求める声根強い。</p> <p>待機・共有空間の充実（サロンスペース） フィードバックを待つ間のスペースや、保護者同士・スタッフとの交流の場が求められている。</p> <p>物理的環境の安全性 「床が滑りやすい」という具体的な安全面への指摘。</p> <p>情報のアクセシビリティ（プログラム表） 施設外（遠隔）にいる時でも、手元でリアルタイムにプログラムが確認できる仕組みへの要望。</p>

過去の取り組みや課題の振り返り

工夫していることや意識的に行っている取組等	事業所として考えている課題の要因等
<p>1. 伴走者としての「積極的な家族支援」 お子さまの成長には、ご家族の安心と安定が不可欠。私たちは、日々の何気ないお困りごとから将来への不安まで、保護者の方に寄り添い、共に考える「一番身近な伴走者」でありたいと考えている。専門的な視点からのアドバイスはもちろん、心理的なサポートを含めた包括的な家族支援を積極的に行っている。</p> <p>2. つながりを生む「積極的なサロンワーク」 教室を単なる支援の場に留めず、保護者の方々がリラックスして情報交換や相談ができる「サロン」としての機能を重視。スタッフとの対話や、時には保護者同士の横のつながりを促進することで、孤立を防ぎ、地域の中で支え合える温かなコミュニティづくりを実践している。</p> <p>3. 一人ひとりに最適化した「個別支援と教材作成」 「みんなと同じ」ではなく、「その子にとっての最適」を追求。個別支援計画に基づき、お子さま一人ひとりの興味関心や発達段階に合わせたオーダーメイドの教材作成に力を入れている。「できた！」という達成感を最大限に引き出すため、環境設定や提示方法の一つひとつにこだわり、主体的な学びと成長を支えている。</p>	<p>1. サロンスペースにおける環境調整と利便性の向上 物理的なスペースの制約を「時間的な運用」でカバーし、保護者様が周囲を気にせず安心して過ごせる環境を整備。</p> <p>2. 支援の質向上に向けた個別ターゲット設定の再検討 提供する支援の一つひとつが持つ意味を再定義し、お子様一人ひとりの目標（ターゲット）に対して、より精度の高い進捗管理とアプローチを行う。</p> <p>3. 組織的な支援力ボトムアップのための協議体制の構築 現場の気づきを定期的に振り返る仕組みを作り、チーム全体の支援スキルを継続的に向上させる。</p>

さらなる充実と改善への取り組み

さらに充実を図るための取組等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
<p>1. 家族支援の深化とデジタル連携 施設外にいる保護者の方へも、その日のプログラム表や活動のねらいをデジタルツール（公式LINEや専用アプリ等）で事前に共有する仕組みの構築。 来所が難しい状況でも専門的な助言が受けられるよう、定期的なオンライン面談や、家庭で使える支援のコツを伝えるショートセミナーの開催。</p> <p>2. サロンワークの多機能化と環境整備 「居心地の良さ」を物理的な安心と交流の促進へ繋がります。フィードバックを待つ間、保護者同士が自然に情報交換でき、かつプライバシーにも配慮した落ち着ける空間（カフェコーナーやライブラリー等）の設置。 「床が滑りやすい」という具体的な懸念に対し、防滑性の高いマットへの変更やコーティング施工を行い、お子さまと保護者が共に安心して過ごせる環境設定を徹底。</p> <p>3. 個別支援の質的向上とプロセス共有 「完璧ではない人間味」を大切にしつつ、納得度の高い支援を提供する。 作成した個別教材がどの目標（個別支援計画）に対応しているかを保護者に分かりやすく提示し、成長の軌跡を「見える化」して共有。 特定のスタッフだけでなく、チーム全体で多角的な視点から「その子らしさ」を分析。より多層的な個別教材・支援案を提示できる体制の構築。</p>	<p>1. サロンスペースの環境調整 ・時間差利用の仕組みづくり：フィードバック時間の枠組みを再設計し、特定の時間帯への集中を回避する。 ・オンライン活用の併用：プログラム表のデジタル配布や、遠隔での情報共有を強化し、滞在の必要性を分散させる。</p> <p>2. 支援の質の向上とターゲット設定 ・データの可視化：支援の成果を保護者に共有しやすくするため、記録の取り方（フォーマット）を統一し、グラフや表で進捗が見える化する。 ・教材の標準化とカスタマイズ：個別の教材作成を効率化するため、ベースとなる教材のデータベースを構築する。</p> <p>3. 支援力UPのための協議体制 ・カンファレンスの定例化：支援の「振り返り」を業務時間内に組み込み、成功事例の共有を仕組み化する。 ・OJTの強化：ベテランと若手がペアを組み、現場でのリアルタイムなフィードバックを行える体制を整える。</p>